



新野中

凌雲の志

学校だより2026年(令和8年)3月24日



(No.19)3月24日号

発行 学校長 岩倉 雅彦



修了式 ~ 自分探し、できたかな? ~



本日、令和8年度の修了式を迎えました。1年生、2年生のみなさん、進級おめでとう。この1年間、みなさんは学習や部活動、行事を通じて、目に見える形でも、見えない心の中でも、大きな一歩を刻んできました。まずは自分自身の頑張りに、心の中で拍手を送ってください。

さて、この1年を振り返って、みなさんに聞きたいことがあります。「自分は何が好きで、何が得意で、どんな人間になりたいか」という、「自分探し」の答えは見つかりましたか? もしかすると、「まだ何も見つからない」「目標なんてない」と焦っている人がいるかもしれません。でも、安心してください。自分探しとは、ある日突然答えが見つかるようなものではありません。目の前のことに一生懸命取り組む中で、「これは楽しい」「これは自分には合わないかも」と感じる。その心の揺れ、一つひとつが自分探しの欠片(かけら)なのです。



目標についても同じです。「世界を変えるような大きな夢」である必要はまったくありません。「苦手な教科に、あと10分だけ向き合ってみる」「誰よりも先に挨拶をする」「友達のよいところを、毎日一つ見つける」そんな、自分だけの「小さな挑戦」は見つけれられたでしょうか。もし見つけられたのなら、それは立派な成長です。まだ見つからないのなら、この春休み、静かに自分と対話してみてください。

1年生にとってこの1年間は、中学生活という新しい世界を「知る」1年でした。4月からは、後輩が入ってきます。みなさんが先輩に優しくしてもらったように、次はみなさんが「頼られる先輩」として導く番です。



2年生は最高学年になります。ということは、自分の進路=「生き方」を選択する時期に入ることです。これまでの経験をいかして、自分だけの「納得のいく目標」を言葉にしてみてください。

竹の節目が、竹を強くしなやかにするように、この修了式という節目で「今の自分」をしっかりと見つめてください。答えが出るのは明日かもしれませんし、数年後かもしれません。大切なのは、「自分は どうありたいか」と問い続けることです。



4月の始業式、新しい目標を胸に、一回り大きくなったみなさんに会えることを楽しみにしています。



~ I look forward to seeing you all in April. ~



第79回 卒業証書授与式



凌雲の志を抱き、未来の空へ羽ばたくみなさんの前途に、幸多からんことを。卒業、おめでとう！



『つれづれに……Vol.12』 1年間、ありがとうございました。

校庭の桜の蕾も膨らみ始め、柔らかな春の光が校舎を包む季節となりました。本日、無事に令和8年度修了式の日を迎えることができました。この1年間、本校の教育活動に対し、保護者のみなさまから寄せられました多大なるご理解と温かいご支援に、心より厚く御礼申し上げます。

振り返れば、この1年は子どもたちにとって、まさに「自己との対話」と「他者との共鳴」の連続であったと感じております。4月の始業式、新しい学年や環境に期待と不安を抱えながら登校してきた子どもたちの姿が、昨日のこのように思い出されます。日々の学習、部活動での切磋琢磨、そして学校行事。一つひとつの場面で、子どもたちは互いに知恵を出し合い、時にはぶつかり合いながらも、自分たちの手で答えを見つけ出そうと奮闘してきました。

特に、新中祭や全町運動会などの行事で見せた、仲間を思いやり、全力を尽くす姿には、私たち教職員も胸が熱くなる思いでした。中学校生活という、子どもから大人へと脱皮を始める多感な時期。彼らが時に悩み、立ち止まりながらも、こうしてたくましく、心豊かに成長できたのは、何よりもご家庭という「心の港」で、保護者のみなさまが日々、深い愛情を持って支え続けてくださったからに他なりません。

朝、眠い目をこする背中を押し出し、夜は温かい食事で迎え、言葉にならない悩みにもじっと耳を傾けてこられたことでしょう。保護者のみなさまが注がれたその一つひとつの「親心」こそが、子どもたちが学校で前を向くためのエネルギーの源でした。学校運営のパートナーとして、本校を信頼し、共に歩んでくださったみなさまの存在は、私たち教職員にとって何よりの励みであり、誇りでありました。

来年度も、生徒一人ひとりが「自分らしく」輝き、夢に向かって羽ばたける学校づくりに、全力を注いで参る所存です。中学校生活はあっという間ですが、その一日一日が一生の宝物となるよう、これからも本校の教育活動にご協力のほど、よろしくお願いたします。

結びに、みなさまのご健勝とご多幸を祈念いたしまして、年度末の感謝の挨拶とさせていただきます。1年間、本当にありがとうございました。